

## これからの福祉と医療を実践する会：緊急特別例会

2009/3/16

### 在宅療養支援診療所の運営戦略...経営形態の多様化と集患方法・連携策の実際

オーシン株式会社 代表取締役

これからの福祉と医療を実践する会 幹事

中村 哲生 氏

#### 常勤医 2 人の組織化した診療所として開業

在宅医療の継続には在宅療養支援診療所の組織化が必要。在宅医療のサポートなどを行うオーシン株式会社代表取締役で「これからの福祉と医療を実践する会」幹事でもある中村哲生氏は、3月13日に開催された同会の特別研修会で、同氏が所属する「医療法人社団南星会 湘南なぎさ診療所」(神奈川県藤沢市)の実例をもとに、在宅医療を成功させるノウハウについて講演した。



「開業してすぐに、必要な医師をどんどん集めた」と中村氏

湘南なぎさ診療所は、24時間365日の在宅医療を提供する在宅療養支援診療所だが、在宅医でも“夏休み、冬休み、ゴールデンウィークの休暇を取り、年に1~2回は家族で海外旅行に行ける”ことをコンセプトとし、常勤医 2人体制の組織化した診療所として2007年5月1日に開業した。2カ月後の7月からは、毎月1人ずつ医師を増員し、現在は非常勤も含めて16人の医師で在宅医療を行っている。

湘南なぎさ診療所の医師のシフト(2008年7月末現在)

区分	氏名	診療科		備考	
常勤	S 院長	放射線科	内科	週5日勤務	月火水金土
常勤	K 副院長	内科		週5日勤務	月火水金土
非常勤	N 医師	救命救急	外科	週1日	木
非常勤	H 医師	精神科	内科	月1日	第4水
非常勤	K 医師	循環器科	内科	隔週	土
非常勤	S 医師	麻酔科	内科		不定期
非常勤	I 医師	皮膚科		月3日	月 木
非常勤	F 医師	内科	放射線科	週1日	水
非常勤	S 医師	呼吸器内科	内科	週1日	金
非常勤	K 医師	循環器科	内科	週1日	木
非常勤	K 医師	皮膚科	内科	週1日	火
非常勤	K 医師	循環器科	内科	週1日	水
非常勤	M 医師	呼吸器内科	内科	週1日	月

セミナー資料をもとに作成

#### 医師 1 人当たりのペイラインは 34.5 人

中村氏は、在宅療養支援診療所の収支シミュレーションを行い、「在宅患者の単価にかかわらず、ペイラインとなる患者数は医師 1 人につき 34.5 人」と試算、常勤医 2 人の湘南なぎさ診療所の場合はペイラインを 68.0 人とした。開業した 07 年 5 月の患者は 22 人。このうち 1 人は休止し、3 人を看取って、月末患者数は 18 人だった。診療所の名称よりも [在宅医療] が目立つように工夫したパンフレットなどで患者数を増やし、7 月には月末患者数が 63 人に増加、8 月にはペイラインを超える 117 人に達した。現在は、一般在宅患者が

約 200 人、施設在宅患者が約 400 人の合計 600 人程度で推移している。

中村氏は、在宅医療で効率化できる点として、移動時間と事務作業を挙げている。事務作業は IT 化で効率化が可能だが、移動時間を効率化するには「患者数を増やすしかない」と指摘。「開業当初は 1 件の移動に 20 分かかっていたが、患者数が増えた現在の移動時間は 5 分」と大幅に短縮し、医師は 1 日 15 件の訪問が可能になっている。

### 連携と集患につながる勉強会を開催

湘南なぎさ診療所が開業時から取り組んでいる活動の 1 つに、訪問看護師やケアマネジャー、薬剤師など、在宅医療で連携の必要な他職種を対象とした勉強会の開催がある。各回のテーマは、脱水の患者が増える 6~8 月には「脱水」をテーマに複数回開催したり、インフルエンザのシーズンには「肺炎球菌」をテーマにするなど、時期を考慮して設定している。また、専門医を講師に呼び、皮膚科医には「褥瘡」や「爪白癬」、整形外科医には「膝関節痛」、麻酔科医には「疼痛コントロール」といったように、専門的な内容を専門医から学べる機会を設けている。

これらの勉強会は診療所で開催し、毎回 30 人前後が参加しているが、終了後には、「たいてい 2~3 人の参加者が残り、『実はこんな患者さんがいて...』と相談を受ける。それが紹介につながる」と、中村氏は勉強会の開催目的の 1 つは集患であると明かす。医師に相談したい利用者がいてもケアマネジャーが「診療所に相談に行く」のは敷居が高いが、勉強会なら相談しやすい。診療所にとっても、事務スタッフが居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションを 1 軒 1 軒回って営業するよりも効率的だ。なによりも「医師とケアマネジャーが直接話すのが、一番理解が早い」と中村氏は言う。

湘南なぎさ診療所の勉強会実績は下表のとおり。

2007 年	テーマ ( )は共催	2008 年	テーマ ( )は共催
5 月 14 日	IVH(テルモ)	1 月 23 日	褥瘡(科研製薬)
6 月 8 日	在宅酸素(テルモ)	2 月 13 日	TPN(大塚製薬)
6 月 13 日	経腸栄養(アボット)	3 月 12 日	尿失禁(ファイザー)
7 月 13 日	腹膜透析(テルモ)	4 月 16 日	リスクマネジメント(大塚製薬)
7 月 18 日	脱水(大塚製薬)	5 月 14 日	携帯酸素緊急用(フクダ電子)
8 月 2 日	褥瘡(興和創薬)	7 月 16 日	誤嚥性肺炎(ファイザー)
9 月 5 日	肺炎(大塚製薬)	8 月 20 日	床ずれ(褥瘡)予防(原沢製薬)
9 月 12 日	腹膜透析(テルモ)	9 月 24 日	疼痛コントロール(ヤンセン)
9 月 19 日	認知症(ファイザー)	10 月 15 日	経口保水(大塚製薬)
10 月 10 日	肺炎球菌(万有製薬)	10 月 22 日	高血圧、糖尿病食(ヘルシーワークス)
10 月 12 日	麻薬(塩野義)	11 月 12 日	血糖コントロール(ヘルシーワークス)
10 月 17 日	脱水(大塚製薬)		
11 月 7 日	うつ(ファイザー)	11 月 20 日	肺炎球菌(万有製薬)
11 月 14 日	褥瘡(興和創薬)		
11 月 21 日	膝関節痛(科研製薬)		
12 月 11 日	肺炎球菌(万有製薬)	2009 年	テーマ ( )は共催
12 月 12 日	爪白癬(ノバルティス)	1 月 28 日	緩和ケア(ヤンセン)

セミナー資料をもとに作成

中村氏は、湘南なぎさ診療所の開業前に実施した内覧会も地域のニーズをすくい取る機会として活用した。内覧会参加者に実施したアンケートに「[ 現在医療機関との連携において、お困りのことはありますか? ]」という設問を設けて、ケアマネジャーや訪問看護師等が日ごろ不満に感じていることを拾い、それらへ対応することが「診療所の成功につながった」という。さらに、具体的に相談したい利用者が「いる」と回答した回答者には相談に赴いたことも、開業初月から22人も在宅患者の紹介を受けたことにつながっている。

### 将来的には看取り数が在宅医療のキーワード

在宅療養支援診療所の将来像として、中村氏は「何枚の死亡診断書が書けるかが焦点になる」と指摘する。

2007年12月14日の中医協・基本問題小委員会に厚生労働省が提示した「在宅療養支援診療所の実態調査 結果概要」(n=3553件)によると、07年6月に在宅療養支援診療所が在宅で看取った人数は1施設あたり0.48人とどまっており、看板だけ掲げて実際には在宅患者をほとんど診ていない在宅療養支援診療所が少なくないことが指摘されている。

中村氏は、病院で死亡する患者が8割近い現状から自宅や老人ホームでの死亡にシフトしたい厚生労働省は、在宅療養支援診療所の施設基準を厳格化することが予想されるとし、「在宅看取り数が年間20件に満たない在宅療養支援診療所は淘汰されるのではないかと見通した。

#### これからの福祉と医療を实践する会 今後の研修会開催予定

日時：3月19日(木) 14:00~16:30

テーマ：認知症ケアへの積極的アプローチ

.....重点施策報告書等を踏まえて

講師：国立長寿医療センター 包括診療部部長 遠藤 英俊 氏

会場：戸山サンライズ 大会議室

参加費：会員 ¥5,000 会員外 ¥10,000 (資料代込み、当日支払)

申込先：これからの福祉と医療を实践する会 事務局

電話：03-5834-1461 E-mail：jissensurukai@nifty.com